

2017年度気象教育懇談会実施報告

教育と普及委員会

教育と普及委員会では、活動目標の一つである「学校教育における気象学・大気科学の充実促進」を図るため、気象が専門ではないが、教えなくてはならない先生方の悩みに応えることを目的とした気象教育懇談会を2016年度より実施している。

2017年度は、「ダジック・アースを活用しよう」をテーマに行ったので、それについて報告する。

1. 概要

開催日時及び場所

2018年1月8日(月) 13時30分～17時30分

田園調布学園中等部・高等部物理室(東京都世田谷区)

プログラム

- (1) ダジック・アースとは何か(60分)
講師：齊藤昭則(京都大学)
- (2) ダジック・アースの設置・調整実習(40分)
- (3) ダジック・アースを使った授業実施例(40分)
講師：畠山正恒(聖光学院)
- (4) キャスターがダジック・アースを使ったら(20分)
講師：南 利幸・岩谷忠幸
- (5) 懇談(30分)

参加者

教員等23名(中学校9名, 中高一貫校6名, 高校

4名, 大学その他4名)

2. 実施状況

平松委員長の開催挨拶の後、まず京都大学准教授の齊藤昭則先生よりダジック・アース開発の経緯やコンテンツの種類、既に使われている事例についての講義があった。次に、参加者持参のパソコンやタブレットを使い、実際にダジック・アースを投影する実習を行った。参加者は、会場に準備されていた直径2mのゴムボールや、90cmの半球、各自に配布されたゴムボールなどに投影して、どのような使いかたができるかを、それぞれに確かめた。実際に設置することで、準備の手順や時間配分等に対する理解を深めたようである。投影するための球体をどのように手に入れるか、といった質問も多く見られた。

その後、畠山委員より「ダジック・アースを使った授業実施例」として、実際の授業でどのように使えるかとの講義があった。さらに、南委員、岩谷委員それぞれが「キャスターがダジック・アースを使ったら」として、テレビの気象情報という短い時間の中での活用例を紹介した。最後に30分ほど、参加者をグループに分け、情報交換の機会を設けたが、各グループとも活発な情報交換が行われていた。



第1図 齊藤先生による講義の様子。



第2図 ダジック・アースを使ってみる参加者。

3. 今後に向けて（アンケート結果など）

前回（2016年度）の気象教育懇談会終了後のアンケートでは、今後も同様の機会があれば参加したい、内容によっては参加したい、とする回答を合わせると100%を占めていた。その結果が反映され、今回の参加者のうち半数が、昨年度に引き続いての参加であった。昨年度は参加者全員が非学会員であったが、今回は学会員が19%を占めていた。参加者のほとんどがダジック・アースを初めて知ったか、あるいは知っていたが実際に使ったことのない方であった。

内容については、昨年度同様、全体として好評であった。次回以降の開催テーマとして最も希望が多かったものは、「気象教育の教材作成」、次いで「温暖化・環境問題」、「防災」であり、教室で生徒に直接還元できる項目と共に、防災など教員が業務を行う上で

の知識が求められていることが明らかとなった。

今回テーマとした「ダジック・アース」は、一般に対する認知度の低い素材であったが、今回の懇談会を通して、授業への活用を伝えることができた。参加者アンケートからも、難易度は適当であり、興味深い内容であったとの結果を得た。

このような研修・懇談の機会を持つことは、気象に対する教員の理解を深め、資質向上に寄与すると考えられる。今後も同様の懇談会を実施し、気象教育の充実に努めたい。

最後に、講師として京都からお越しいただき、ダジック・アースのDVD等をご提供いただいた齊藤准教授、今回の会場の提供と見学会開催に協力いただいた田園調布学園中等部・高等部に感謝申し上げます。